

1.河川及び流域の概要

1.1 流域の概要

九頭竜川水系は、その源を福井、岐阜の県境油坂峠(標高717m)に発し、北西に流れ、石徹白川、打波川等を合わせ、さらに真名川等を合わせ、勝山市を経て福井平野に出て、日野川を合わせ北流し、三国町において日本海に注ぐ、幹川流路延長116km、流域面積2,930km²の一級河川である。

その流域は、福井、岐阜両県にまたがり、福井市をはじめとする5市17町3村からなり、福井県北部における社会、経済、文化の基盤となっている。

流域内人口は約67万人であり、福井県人口の約80%を占めている。流域全体の約37%にあたる約25万人が福井市に集積し、次いで日野川流域の武生市・鯖江市に約14万人、下流部の坂井郡6町に約12万人が生活している。

流域の形状は、加越山地、越美山地、越前中央山地、丹生山地に東・西・南の三方を囲まれ、北方に河口が開けている。流域は、九頭竜川本川、日野川、足羽川流域の3つに区分され、九頭竜川本川流域は全流域の中央部および東部を占め、日野川流域は西部と南部、足羽川流域はその中間部を流域としている。

流域の地質は、北部と南部で大きな相違が見られ、北部には飛騨変麻岩を基盤としてその上に手取層群、足羽層群が被覆しているのに対して、南部は主として丹波層群が分布している。

流域内の年間総雨量は海岸部で2,000～2,200mm、山間部で2,600～3,000mmとなっており、全国平均でみると多雨多雪地帯に属している。



図1.1 九頭竜川流域図

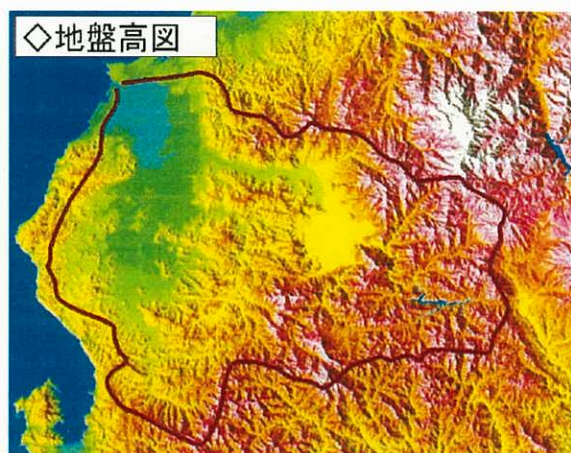


図1.2 地盤高図

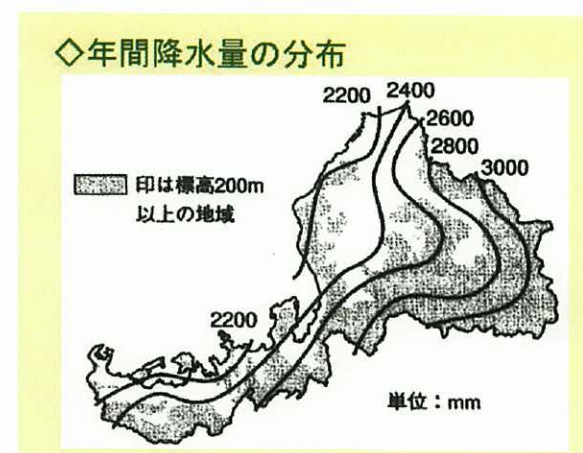


図1.3 年間降水量分布図

1.2 河川の概要

九頭竜川は、多くの支川が南北に広く分布し、扇形の流域を奥地に向かって広がっていることが1つの特徴で、周りは中位の山地で囲まれている。本川をはじめ各支川においては、河道に沿って中小規模の谷平野の発達するところが多い。従って、山腹の急斜面は直接河川にのぞまず、河川が急な渓谷状を示さないところが多い。

九頭竜川は鳴鹿地先で平野部に出て、半径約6kmの扇状地を形成する。ここでの河床勾配は小さく、鳴鹿地先と舟橋地先の間では1/300であるが、舟橋地先と高屋橋の間では1/540~1/1200に急変し、JR北陸本線鉄道橋をすぎるあたりからは急に川幅がせばまる。

日野川が合流した九頭竜川下流は1/10000の緩流河川になるが、右支川竹田川の合流点より河口にいたる2kmの間で再び1/5000程度に勾配を増す。

福井平野は、九頭竜川及び日野川、足羽川などの下流に発達する低平な沖積平野で、福井市街地はこの3川に囲まれた地域に人口及び資産が集中している。福井平野における九頭竜川の過去の洪水氾濫は、このような特性を反映し、福井平野の大部分に冠水被害が起りやすい地形となっている。

◇他河川との比較(河川勾配)

わが国の河川は、外国の河川に比べて勾配が急であることがわかります。

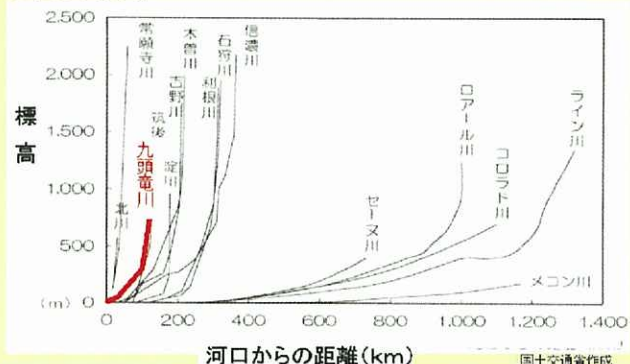


図1.4 河川縦断図(1)

◇九頭竜川・日野川・足羽川の河川勾配

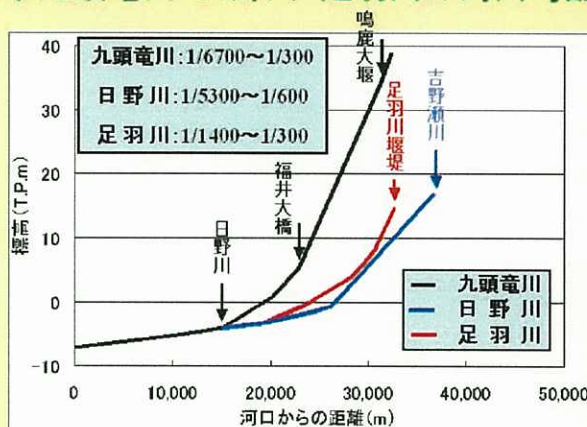


図1.5 河川縦断図(2)

◇九頭竜川の特性

地形特性

- ★九頭竜川、日野川、足羽川の沖積平野に福井市は発展してきた
- ★福井平野は三川の洪水時の水位より低い

降雨特性

- ★降雨には、地域的、時間的な偏りがある
- ★近年広範で大きな降雨が発生していない

氾濫特性

- ★福井市街地に人口、資産が集中している
- ★3川のいずれの河川が氾濫しても福井市街地への影響は大きい

-46-

図1.6 九頭竜川の特性